

都市計画の策定と 駅周辺の活性化を



質問者
齋藤 永 議員

駅前に集中する大量の交通を円滑にさばくとも、交通機関相互の利便性を増進するために、駅前整備をされていると思います。また、都市美観上及び都市防災上も重要な役割を有する都市施設であります。まだまだ開発途中の松田駅・新松田駅の周辺整備ですが、以下のことをお聞きします。

① 議会全員協議会に出されました新松田南口駅前広場整備事業計画ですが、交通の円滑化やR&R（※下記参照）には、現状解決策になっていないように思われますが、
② 駅勢圏人口をどこまで見て、どのように予測されましたか。

③ 酒匂川左岸縦貫道路を町内に通過させることにより、小田急やJR駅周辺整備を国や県の力を借りながら、都市計画を実施すべきと思われませんかですか？

② 平成13年度の計画年次では、都市計画区域内として、人口13340人と予測した。今後は、近隣市町の居住人口や小山町までの範囲を駅勢圏と捉え、駅周辺整備計画に向けた調査・研究をしていく。

A 都市計画 マスタープランを 進めます

回答（町長）



① 事業がまだ途中ですので、解決に至っていないのが現状です。北口広場のバスの発着と送迎による一般車両の分散化を実施し、南口広場から小

田原方面行のバスを発着させ、交通渋滞の緩和を図っていく。このことにより鉄道やバスへの乗り継ぎが整理され、バリアフリー化と共に利便性が向上すると考える。



混雑する新松田駅北口

③ 今後検討する上での一案としていく。都市計画決定事業も含め、国・県の補助事業が活用し易く、早期に事業が実施できる手法を選択していく。
※R&Rとは
バスや鉄道等の公共交通機関の乗り継ぎの事

胃がん対策の充実を



質問者
南雲 まさ子 議員

国民の死亡原因の1位ががんで、がんの中で第

1位が肺がん、第2位が胃がんとなっています。

本町でも胃がん検診を実施し、予防に努めているものの、受診率が低調のまま推移しています。そこで次の2点を伺います。

① 松田町総合計画では、がん検診の受診率の向上として、平成26年度21.4%の実績を平成30年度目標では、25.7%と掲げています。どのような方策で受診率を向上させていくお考えでしょうか。

② いま注目されている方法として、胃がんになるリスクを事前に採血によって見つける検診がありますが、町として採用してみたいかがでしょうか。

A

町民の健康と 命を守る

回答（町長）



① がん検診の受診率向上のため、国の事業を利用し無料クーポン券を発行し、平成24年度からは、前年度のがん検診受診者には、自動的に申込みを受けた扱いにし案内している。今後も検診の必要性等をわかりやすく広報紙やホームページで説明し、受診率の向上に取り組んでいく。

② 胃がん検診は、バリウムを飲み身体的負担を伴うため、受診率が低い一因と考えられる。採血のできるABC検診は、胃がん検診の受診率向上にならないが、胃がんの予防と早期発見につながり、胃の健康状態を知ることができ、翌年からの検診につながると思われる。

高齢者の方に比べ受診率の低い若い方の受診率を高め、早期発見につながるよう費用や体制面等を研究していく。